

附屬書類添附

受12152號

天正貳年六月貳日 接受

公信第一一八號

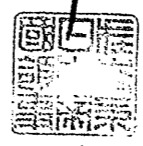
警務政務局

大

大正二年五月廿二日

在南京

領事 船津辰一郎



外務大臣男爵牧野伸顯殿

南京ニ於ケル警察機關ニ関ル件

當地ニ於ケル警察機關ニ近時其組織ヲ變更改革セシメタルヲ以テ調査セシメ候處別紙ノ通ニ有之候間御参考迄及報告候
敬具

右様為 送付 済

南京ニ於テ警察機關(豊田警部調査)

- 一 南京警察、沿革
- 二 警察廳ノ組織
- 三 警察廳ノ職員及其俸給
- 四 警察官吏ノ配置及分布、割合
- 五 巡警ノ勤務
- 六 警察官吏ノ養成
- 七 警察費
- 八 水上警察及探偵總局
- 九 地方警察

一 南京警察ノ沿革

南京ニ於テ警察機關、前清時代光緒三十三年五月(明治四十一年)地方官制改革、結果

巡警道ヲ設立シ全省、警察事務ヲ管理シ所轄地方ヲ區分シ警察制度ヲ改メ、當時南京城内ヲ東西南北、四路ニ分ケ又一路ヲ五區ニ別ケ一路ニ巡警局一區ニ分ケ又一路ヲ五區外下関(船舶埠頭)ニ高埠巡警局ヲ置キ其組織稍々完備ス、至リシモ革命、際一時軍事警察ヲ組織セシ為メ所管事務、混亂シ生セシニ因リ秩序、回復ト共ニ之ヲ裁撤シ普通警察ト憲兵トノ所管ヲ明シ更ニ江河取締、為メ水上警察ヲ組織シ又探偵總局ナルモノヲ特設シ、昨年十二月軍民分治ノ結果普通警察水上警察及探偵總局ハ民政長ニ直屬シ憲兵ハ都督ニ隸屬セシメタリ次ニ本年一月中央政府



現在南京警察廳所管內之巡長以下、總

警察廳

北區警察署及各分署	商埠警察署	河東區警察署	內城區警察署
巡長官	巡長官	巡長官	巡長官
四 〇 四 一 〇 〇 〇	五 七 六 二	六 〇 六 二	六 〇 六 二

東區警察署及各分署	西區警察署及各分署	南區警察署及各分署
巡長官	巡長官	巡長官
四 一 四 一 〇 〇 〇	四 〇 四 一 〇 〇 〇	四 〇 四 一 〇 〇 〇

四、警察官吏ノ配置及分布ノ割合

巡長(巡查部長)	巡警(巡查)	計
一七九	一七九	一七九
九元乃至十一元	七元乃至八元	一四五〇五〇元

員數千九百六十九人。之ヲ人口約三千万人
 對之分布ノ割合ヲ見ルニ人口百五十人強ニ巡
 警一人ニシテ城内四區及高埠、河東、内城、七區
 内、於ケル巡警派出所ノ總數ハ三百七十五個所
 ニテ土地ノ繁閑、人口ノ粗密ニ據リ之ヲ布置セリ

五、巡警ノ勤務
 巡警ノ勤務ハ之ヲ甲乙丙三班ニ別ケ派出所ノ
 位置・立寄勤務ヲ為サレムノニテ其勤務時
 間ハ毎四時間ヲ以テ交代セシメ毎一人一晝夜ハ
 時間ノ勤務ニテ巡長ハ巡警十人ニ對シ一人ノ
 割合ニテ巡警ヲ監督セリ

六、巡警ノ官吏ノ養成
 現在南京巡警官吏ノ養成所ニ於ケル學生

ハ二百名在リテ修了學期ハ一年半ニテ之
 ヲ三學期ニ分ケ一學期六ヶ月トシ每一學期ノ
 是員ヲ八十名トシ全學期修了ノ後ハ巡官(警
 部相當)ニ任用シ江蘇全省ノ各巡警署ノ
 配置スルモ學生悉ク自費生シテ全學期ノ費
 用ハ每一人百五十元ニシテ一學期毎ニ五十元先
 納セシメ居リ而シテ其教科目ハ公、私法ノ大
 要及一般警務學官ニ必要ナル警務法規等
 ニテ入學資格、年齡二十歳以上二十五歳以下
 ニシテ中學二年以上修業ノ者若クハ全程度ノ
 學力アルモノトセリ又教員ハ何レモ警務學堂
 及法政學校出身ヲ以テ之ニ充テ居リ尚巡
 警教練ノ為ニ巡警教練所ヲ設ケ各巡警

署より現職の巡警ヲ撰抜^所定員一百八十
名トシ修業期三ヶ月ニテ巡長(巡查部長)ハ該
修業生より任用スルトナシ居ル

七、警察費

南京警察廳以下職員及巡警ノ總員數
二千三百三十二人ニ對スル月俸總額十四万五千餘
元ニシテ庶費及各警察署費ハ少ク月額五
千元ヲ要シ總計十五万五千元ニテ一々年ノ經常
費百八十萬元餘ナリ

八、水上警察、探偵總局

水上警察ハ昨年五月江防木師一部ヲ更
更シテ水上警察ヲ組織シ江河ノ取締ヲ爲シメ
又探偵總局ナルモノヲ特設シ行政公署ニ直屬シ探

偵ト事務トセリ尚其他查烟隊ナルモノアリテ禁煙
ノ査察取締ヲ爲シメ居ル又地方檢察廳ノ下ニ
司法巡警(刑事巡查)ナルモノアリテ探偵ト事務トセ
リ故ニ探偵事務ニ就テ相互ノ關係頗ル錯雜
ナリ

九、地方警察

地方警察ハ各府縣知事ニ隸屬セシメ其
組織ハ南京各警察署ノ組織ニ準據
シ居ル

在芝日領事館

右報告申渡し
此等本領事館
に付ては
公使
様
御
手
紙
等
御
返
事
等
御
返
事
等

水

報告書

在濟南森園書池生、報告右通り

一、張勳が退却黄興より南方第二革命計画を和、勸

誘うまて之を拒絶、直情を具し、袁總統に電報し

たる、張勳ハ御承知通、しか爾來世間、誤解ヲ避ケ

シ、各省ノ一切外客ヲ接見セムトス

二、当地周都督ハ徐寶山暗殺ノ報ニ接シテ、以未身

辺ノ警戒ニ急リ、キモ、如ク毎夜機關銃隊ヲシテ督

署内ヲ防衛セシメ、ツアリ

大正二年 十月 三日

在天津

日本總領事館

在天津日本總領事館

取務長阿部守太郎殿

支那の歴史

地

附屬書類添

大正二年五月三十一日

六月九日接受

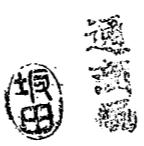
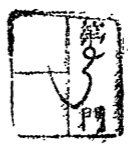
善政務員

大

南京日本領事館

〇抄

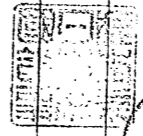
文12608號



大正二年五月三十一日

在南京

領事 船津辰一郎



外務大臣男爵牧野伸顯殿

交渉局名改稱ノ関スル件

在来ノ當地及鎮江ノ交渉局並ニ安徽省
 安慶ノ外交局ハ今回何レニ交渉員署ト
 改稱シ其局長ハ交渉員ト改稱シ旨吏
 湘牒ニ接シ候ニ付御参考迄新舊官
 名並ニ現任者名別紙ノ通り及報告候
 追布本信寫ハ北京公使ニ送付及此候也

南京日本領事館

敬具

支那の領土

館事領本日京南在

舊		新		日		新	
官	廳	官	廳	官	廳	官	廳
江蘇交涉總局	江蘇交涉總局	江蘇交涉總局長	江蘇交涉總局長	江蘇交涉總局長	江蘇交涉總局長	曹復	曹復
江蘇鎮江交涉分局	江蘇鎮江交涉分局	江蘇鎮江交涉分局長	江蘇鎮江交涉分局長	江蘇鎮江交涉分局長	江蘇鎮江交涉分局長	鄭汝	鄭汝
安徽外交局	安徽駐江交涉員署	安徽外交局長	安徽駐江交涉員署	安徽駐江交涉員署	安徽駐江交涉員署	畢	畢
駐蘇外交之辦事處	蘇湖交涉分署	駐蘇外交之辦事處長	蘇湖交涉分署	蘇湖交涉分署	蘇湖交涉分署	周	周
						運	運
						鈞	鈞
						以上	以上
						現任者	現任者

大正元年六月 拾日 總覽

外務省

公第一三三號

大正二年二月三日

在厦門

領事 菊池義郎



外務大臣 野田 敬野 伸 顯 殿

漳州 警務 署 長 愛 死 二 千 九 百 一 十 年 一 月 一 日

客月二十五日午後九時頃漳州警務署長陳之鴻向地觀警使衙門口懷運何者三力爆烈彈ヲ投下セラシ即死ヲ遂ゲタリ内行者元向地警務長林萬三觀警使衙門書記白石碌モ亦重傷ヲ負ヒ生命ノ覚束ニ至リ因

在厦門日本領事館

二回レテハ若説給々ニシテ確知シ難キ事ト向地警務署下起事ト後間モヤク即明治四十二年一月一日中曾向地道台ニ警務署長ニシテ警務署長職ニ當リタル土着紳士ニ向地起事ニ際シ主動者一人タル宋不善度暗殺ノ事トアリ明治四十四年一月十日付公第一〇九號老照右陳之鴻モ亦當時向地起事ニ力ヲ盡シタル人ナリ宋不善度相及目セ同柄ニ陳之鴻ハ宋不善度何等關係アリタルモノカ今固愛死ノ事ハ報復ニ出デタルモノナリト云フ者アリ或ハ陳之鴻ハ本年四月末警務署長ニ任ゼラレタリ同モヤク公唱ラ許可シ之ガ徵稅ヲ右林某ニシテ請及ハシメ其間ノ不正ノ行為アリシト云フ事亦極暴ノ事

二〇九号ハ
陳之鴻
宋不善度
何等關係アリタルモノカ

その形は...
...

勤王の事民多怨う買居る之等が其一同
ナリタレハ此輩ヲサシカト云フ者アリモ
外説矣近キガ
ゆシ而シテ本年四月五日某日地城
陰廟ニ於テ
敷石者爆烈彈袋中爆発死シ即死者
五名アリタル椿事アリ今固又此事アリ然
モ未タ犯人ノ印通揮老ニ至ラス日地
心稍々慌々トモセリ
右ハ其考査及以テ報告スル教具

在厦門日本領事館

受12844號

大正貳年六月拾壹日接受

警務政務

第一號

公函第二〇號

大正二年六月二日

在漢口

總領事 芳澤謙吉



外務大臣男爵芳澤謙吉殿

廣陽兵器工廠同盟罷工件

南北紛争劇後以來漢陽兵工廠ハ俄然繁
忙ヲ来シ職工ヲ増カシテ專ラ兵器ノ製造ニ從事
シ商品ハ統々北方ニ輸送シツテ保々青島世
ハ職工等ト對スル給料ノ支拂日ナラシム以テ全廠

在漢口日本總領事館

総理劉啓恩ハ夫レ友誠ノ爲リ紙幣ヲ發給スル
結果忽々同盟罷工トナリ二千余ノ職工ハ大江ヲ
渡リ武昌都督府ト赴キ請示スル所アリシ時
劉元洪ハ多數ノ職工ノ救済スルテ或ハ意外ノ事
變ヲ醸サセリト然レ直ク之ヲ爲兵隊ニ命ジ
テ四周ヲ警戒セリ一面顧問參謀等ヲシテ總々
説諭セリ以テ職工等ノ怨意ヲ排納ス可キ旨ヲ説
得シ鬼角一時漢陽ヲ引取リシメタル職工ノ
令部ハ尙且ナル多決ノ見ルニ一旦警務ノ長事セ
ガルヲ中令々々退散スル
右同盟罷工ノ原因ハ從來全廠職工給料ハ右友
誠乃紙幣ヲ以テ支給シ来リシハ近來時局ノ新
形爲リ更々テ同盟罷工ノ信用ヲ失フヤ從來ノ全廠

芳澤謙吉
（印）
地方

一云、昔し銅貨千二百文ノ法定を以テハ漸次下爲トテ
目下一云、昔し幣カニ千文ノ至ルニ三ナク又ニ過キガレ
ソ以テ職工等ハ暗中ニ如斯ク兌換ノ變クルニ急ムトシ
銅元ヲ以テ材料ヲ支給セリトテ請求シタルニ令依リ
劉濤鬼ノ拒絶スル所トナリテ以テ終ニ同盟罷
工ヲ爲スニ至リ是レ昔ニ智習似テハ誠幣ノ下
爲ニ至リ兌換ノ變ルニ各局處令一トテ故テ吾工
廠ノミシテ限ラザルニ元來幣造リテ一家ヲ支持スルガ
如クノ概ハ昔程ニ無念シ思フ時其民衆兵工廠ヲ
第一ノ事業ト爲スル如ク事ヤリテハ一大事トシ誠工
例ノ幣造ルニ宜ルニ方針トシテ今後策ヲ講シツカレ
由ナシニ多ク大事トシタルトテ日後福スルニ至ル
可シ

在漢口日本總領事館

九月廿九日

古月大嘗

〆

総経府常務者云

在清國日本公使館

(一) 廣東都督胡漢民、免官

廣東之北、心軍隊運動、已之全ク成熟、之云ク、胡漢民、
総経府常務者、胡漢民、免官、命令、如シ

(1) 獲軍使陳炯明、ヲ、免官、之、任命、スル、之、決定、シ、

又、之、安徽都督柏文蔚、ハ、不、辭、表、提出、シ、之、免、官、ス、

之、新、皖、都、督、譚、延、闓、ハ、進、京、謁、シ、温、敬、ナ、ル、

以、之、成、ハ、留、任、ス、ル、之、事、ヲ、知、リ、又、之、南、北、局、解、決、

期、ハ、短、ク、シ、テ、近、キ、ハ、アリ

(二) 江西都督司令官陳道訓、來電

今、日、之、任命、ヲ、感、謝、シ、覺、其、中、誓、死、效、忠、ト、宣、言、ス、大

總統、殿、下、ニ、是、レ、シ、ハ、アリ

大臣
次官
政務
通商
會計
取調
報告
條約
換

上海條
大正三年六月十日
六三三

牧野外務大臣

有吉總領事

第二八號

伊集院公使兼(十月十日)

第五六號

六月十日附大總統令(以陳貽範胡

漢氏ヲ西藏宣撫使ニ陳炯明ヲ廣東都

督ニ陳昭常ヲ廣東民政使ニ各任命ス

ハキ者察表セラル

伏乞先考御覽

(1) 亦

年七月十五日

内務大臣御書

(一) 廣田氏に対する善後辦法ニ就テ

今田実正胡漢民ノ西義官機使トシ陣烟明
自費ニ任命シタル陣烟隊ハ全部却ニ對シテ
以下何事ノ多量ヲ惹起スル事ナシ且陣烟明ト對シ
民政長陣烟明トノ關係ヲ改良スルヲ以テ將來

奈良用箋

廣田氏ノ此ノ危險ヲ根本ヨリ改メタルト云フヤ
陣烟明ニシテ已ニ御書トナリタル以テ一切官機使
歸スルニ危險ナキコトヲ暫ク獲テ軍使ヲ送カサルハ
又胡ノ西義官機使トシタルハ胡ノ面子ヲ保ツ上
ヲ打撃シテ其ノ免官ノ嫌ヲ避ケタルコトナリ胡ハ
之ニ對シテ申ス辭任ヲ要求スルハ此陣政府ハ之ヲ許

年月日

可シテ平民之下ノヲ針ナリ云ク

(二) 進歩黨職員会ノ決断

昨日本部ニ於ケル職員会ニテ二項ヲ決断シテ

大会ニ付スル言 (一) 青木凱ヲ正式大統領トシテ

七月中ニ選挙スルベシ (二) 大統領選挙ニ於テ

直中ニ正式政府ヲ組織シ進歩黨ノ總理ヲ舉グン

奈良用箋

(三) 外務境域協定ト關係

義シ備政府ニシテ關係ヲ利用シテ外務の区域

協定セシムル意思アリハ是レ及テ中国政府ノ好都

合ナリ何トシテ政府ハ直中ノ内務省長官ニシテ

民間ニ協定シテ民間政府ノ令レテ世々トワラン

ヲ利用シテ外務省長官ニシテ關係ニシテ

年月日

セリハ子喜々容易ナレト也 政府ハ下級民間
接交シテ希望スル

(四) 日本ヲ支那民論ニシキ

是レ中日將來ノ由々致大ニ使ナリ近來ニ至リ延
前日本對シテ大ニ的厚意ヲ有シワハリシ一般支那
官民モ唯今ハ如シ日本ノ民論ヲ改觀シワハリ

奈良用箋

兩國政府間ノ誤解ハ國民ノ輿論ニ至リテ網羅ナ
ル事ナカレバ國民ト國民ノ反應ハ一タシテ
融和スルヲカクベシ此ノ意味ニ於テ折角成事トスル
中日國民協會ハ孰レト無意味トモトナリ或ハ
敵ノ己ヨリ得ルニ至リヤ知ラズ日本ノ民論ニシテ
迄ニ強硬ナルモ支那ハ己ヨリ得ル外國ノ民論

年月日

(4)

機関ヲ利用シテ之ヲ聲ヲナルハカク入場シ果シテ日本
 政府ハ此子ノ間ニ目下多大ノ汚辱ヲ掛
 ケルハ以テ早急ニ何カ力ヲ使テ之ヲ救ハルニ至ルベシ
 又云ノ日本ニ在リテ新聞ニ見ユル北京ニ在リテ及
 此支那ノ情調マデモ地々排露的能心ナルハ餘亦
 日本公使ノ心懐ニモ多ク疑ヲ感ハス云々

奈良良用箋

第13183號

大正貳年六月拾六日接受
主營 政務局

公債第六五號

大正二年六月一日

在長沙

領事代理 岡本武三

外務大臣男爵牧野伸顯殿

葉德輝逮捕事件之関スル件

客月二十七日當地坡子街ナル葉德輝、
開店モ雜貨店葉公和ニ突然械闘
銃隊ノ兵士数名來店ニ上官ノ命令ナリ
ト稱シ主人葉德輝ニ對シ軍事廳ヨリ

在長沙日本領事館

同行ヲ求メタルカ葉德輝ハ身軍人ニアラ
サルヲ以テ軍事廳ヨリ官與ヲ受ケルノ理由
ヲシトナシ逮捕ノ理由ヲ聞訊シ旁該兵
士ト共ニ警察署ニ出頭シタルニ警察署
ニ於テハ葉ノ逮捕ニ関シ何等ノ照會接
シ居ラス又審判廳ニ於テハ令狀ヲ發行
ナラシテ濫リニ逮捕シ覺者ヲ受理スルヤ肯
セカント共ニ葉ノ逮捕ヲ聞キ付ケ坡子街ノ
團衆及姜長沙知事等ヨリ葉ノ保釋
ヲ願出テタルヲ以テ葉ハ軍事廳ニ拘引
セラルコトヲ免シラシムモ後雜ヲ恐レテ目下
當地大西門外、怡和洋行ニ仮寓シ居リ

手形
葉德輝

今回葉德輝カ軍事廳ノ手ニ逮捕セ
 トスルに至リタリ近因ハ唐才常ノ弟唐才
 質ナル者ヲ葉カ(一)前清時代ニ於テ覺
 迷要録ヲ著シ其内革命ノ先
 先驅者タル唐才常ヲ誣毀シタリコト(二)
 本年四月中葉德輝カ團董ノ職ニアル坡子
 街保安團ノ公廟古護國寺ヲ佔取シテ富
 強女學校ヲ開設セシトシテ者アルニ對シ葉
 カ極力其不法ヲ論シ遂ニ富強女學校ノ
 開設ヲ妨テタリコト及(三)當地貧民工藝
 廠ノ經費ニ充當スル為メ肥料汲取人
 肥料捐ヲ徴セシトシテ奉アリ為メ肥料汲
 取人ノ激烈ナル反對ヲ招キ延ヒテ鄂菜
 類ノ同盟罷市ヲ見シルカ其際葉肥料
 汲取人側ノ主張ヲ是トシ當局側ノ措置
 ヲ否トスル言説ヲナシタリコトノ三事ヲ以テ葉
 ヲ軍事廳ニ告訴シタリタリコトノ三事ヲ以テ葉
 因ニ葉カ平生自己ノ意見ヲ忌憚ナク
 表シ及家富メルモ拘ハラス革命ノ際脚
 用金ノ寄附ヲ肯セサリシ為メ革命關係
 者ヲ嫌疑ヲ買ヒ居ルニアルモノコトヲ唐才
 質ノ今回ノ告訴ハ唐才常ノ長子唐蟒
 カ叔父才質ノ名ヲ以テ世間ノ風評宜シカラ
 サル葉カ對シ葉カ覺迷要録中父才常
 ヲ罵倒シタル私怨ヲ晴ラサヒトシタルモノナリト
 當地方ニ於テ取沙汰セラル(葉ハ嘗テ今ノ禪

在長沙日本領事館

都督ノ父譚鍾麟カ西廣總督タリシ際
 其文案ノ職ニアリシカ、唐才常モ亦當時譚
 鍾麟ノ下ニ官吏タリ其地位葉ノ下ニアリ、西
 者ノ交ハ當時甚ク宜シカラサリシカ如シ
 右何等脚參考迄、脚報告本准修
 敬具

在長沙日本領事館

第9門

報告書

一 伍廷芳 昨十四日着津 佛租界裕中飯
 新ニリ 十五日午前上京シタルハ 馮 都 特ニ到
 内務司長ヲ代理トシテ 訪問セシメタルト云フ 伍 若
 禮トシテ 鄭 特ニ訪問シタリ 其他 楊 警 察 廳
 長及ニシテ 國民 党 員ノ 訪問ヲ 受ケタルハ 外 尚
 地ニ於テハ 何 等 注 意 スル 行 動 ヲ 有 其 任 令
 田ノ上京ハ 南北 妥 協ニ 際シテ 充 分ノ 成 果 見
 テナリト云フ
 一 保定 東 關 外ニ 於テ 火 藥 庫ニ 四 前 匪 徒 入 込
 點 火 爆 發セシメタルト云フ 由 此ニ 衛 兵ニ 發
 見セリト云フ 行 ア ン 結 果 リト云フ
 大正五年五月十五日

在天津日本總領事館

在天津日本總領事館

政務長 阿部 守 郎 殿

（印）

（印）

附武官ト虽元亦復之ト相親ケト能ハス如クニシテ
 深ク英國ノ情形ニ通曉シ以テ適切ニ周旋塔辦
 セト欲スニ管々望ミテ得ハケシヤ我軍ノ南
 北ニ対シ本領祖スル所ニ願ハクハ我外務省
 向サレク之ニ意ヲ加クハキ耳ト又日本ヨリノ
 情報ニシテ日人謂ク我國人ノ中國ニ出スル外交
 一日午室ノ執カアリ伊集院公使ノ如キ實ニ北
 京外交團ノ中心ニシテ事固ヨリ喜フハキニ属
 ス然レトモ滿蒙方面ノ事則チ俄國ノ運動一
 化シテ更ニ之ヲ禍シンキノ概アリ即チ近來庫
 倫逆佛蒙古協王ト會議シ俄軍ノ支遣ヲ解
 放スル所以ヲ圖リ俄國軍人ノ庫倫ニ在ルモ甚
 多クシ庫倫ノ軍隊ハ多ク其ノ訓練指揮ニ
 陽シ所ナクノ軍火亦俄人ノ供給スル所ニ係リ蒙
 人ヲ運搬シテ之ヲ中國ノ人犯セリト歎ス見ヨ東
 蒙各地ニ日俄協高ノ信ヨリ俄人未ダ直接臨前
 セトモ之ニ向テ東蒙諸王リ突ニ當テ均ク庫倫
 駐シテ會議スル所アリ日本ニモノ宣フ之ガ抵制
 ノ策ヲ措セザルヘカラス古々是ニ由リテ之ノ見ルニ日
 本リ東蒙ニ対シ固ヨリ未ダ當テ陰印又ニ志増ス
 セル所ナシヤ今ヤ俄國己ニ最後ノ照會アリ日本亦
 久シカクカシテ事勢動アムカシ
 〇總領事府生ハ駐日外交代表汪伯燾ノ急電ニ接
 ス曰ク探聞スルニ日本陸軍省知事4緊急命令
 ヲ發シ凡ソ該國人民ノ軍務ニ在ルモノハ一律強
 制スル所アリ其ノ目的トスル所ハ未ダ決ラズ

在天津日本總領事館

測新ス可カラト云々港上暴徒殺害ノ始ニ就テ
之ヲ見ルニ長江上下各國警備軍艦ハ日本
以テ最多ト云々而シテ日内院相續三省ニ向テ軍
階ヲ調動シ將ニ躍々試ル所アラントシテ乃チ陽ニ
其事ヲナキテ聲言シ紙カシ陸軍右處ノ軍艦ヲ
撤退セリ其ノ意旨ヲ揣ルニ夫ハ右國其言ニ應
惑ニ我國ニ防軍ノ撤回ヲ要求スルニ及シテ殺徒
際ニ策ヲ急ニ告タル所アルヲ希圖セんとシテナリ表
面河華南方祖護ノ形ナレト雖モ暗中ノ助力
實ニ多シ我國政府ハ之ニ對シ特ニ注意スル所
ナカルベカラズ

④河南有ニ於テハ從來山東博山新泰地方製
造ノ玻璃ヲ需用スルモノ大ニ多ク近年々ノ輸入

在天津日本總領事館

欲解テニララズ然ルニ河南祥符縣附近ノ硝
石ノ産出ナカラザルヲ以テ此際寧ロ兩名ヨリ
察査ナラシメテ其ノ硝石ノ産出シ地魯右管現玻璃廠
ヲ設ケシテ其ノ硝石ノ採掘ヲタキテ其ノ硝石
河南實業司長ヨリ山東實業司長ニ對シ
照會アリ山東實業司長ハ之ヲ却テ其ノ硝石
シテ之ヲ者會ニ提議シテ承認シホムト同時
ニ河南ニ向テ其ノ硝石ヲ採掘スル外河南實
業司長ニ於テ之ニ同様之ヲ者會ニ提議シテ
リト云々

⑤各地ニ於ケル國民者等一極國新聞者魯民殺
七箇條ノ級事件ニ對シ報告ノ通リナル如ク社
リ新師長ノ壓迫ニ堪ヘテ今更ニ決議解散

西島南郷地方の由来産業見ルキニテ、古
 徒到ル處ニ跡果シテ良民其生ヲ柳多生林
 日ニ感定マリ民衆繁ク由テ不長ノ子弟年
 々増加シテ将来ノ錫向故想ニ堪ハサシアリ
 之ヲ以テ本年三月、支費州若後局ノ費
 儀ヨリ産業振興ノ指テ起見ニ城内ニ
 柳澤傳習總局ヲ設ケテ各村ヨリ学
 生四名ヲ選送シテ一月間查釋、東田ノ編造
 下敷校ニ畢業、後之ヲ各村校ニ傳習
 傳習所ニ指派シ各村選送、學生ニ傳授
 也、アル未ニ後見ルキニテ、近來同品ノ
 産額依ニ増加シテ、外高ノ注意ヲ得ルニ至リ

在天津日本總領事館

此程大ニ過取同州ニ於テ、同品同取ノ目的
 トシテ、魯利公司(資本二十万弗)ノ設立ヲ企
 ニ當時、官程ヲ擬就シテ、行政公署ニ認可
 申請中、處令由愈之ノ許可ヲ得タリ
 大正五年一月十八日

在天津總領事館

天津總領事館

中立ノ態度ヲ持シワアルニシテ一確信スル所ナシカ
若シ日本ノ態度ニシテ若シ一動北方ニ傾クフランカ
南方ノ感情ヲシテ悪カラシメ日貨排斥等ノ事
件起リ経済上ノ損失ナルニシテ又國支ニ
影響著カシキ不幸ヲ見ルヤモ知ルル所ナク古ク
又國民意見の現ルハ情態ニテ好關係極力表ト申
フ事トハ第一得タルモノニ非ズ國民意見の示ル所ニ於テ
多少ノ失敗ヲ招クモ結局ノ勝利ヲ得ルニシテ
積極的ノ行動ヲ執ラハシムト万全ノ措置ト認ム古ク
又在ルハ梁洛招リ一敵ニ表出テト移シラシワ
アルニモ其全全カシクニ表出テト移シラシワ
也ニシテ明カナリト認レリ

在天津日本總領事館

一國民意見の現ルハ情態ニテ好關係極力表ト申
奉ル材ヲ失ヒ唯現ルハ好議者長官守
諸君アリテ黨派ノ團結ヲ維持セラシムアルハ
右様たちの若シ其如き民意をヨリ壓迫シ加ヘシ
違守諸君の現在ノ地位ヲ失フコト生ラバ當地ノ國
民意見の現ルハ情態ニテ好關係極力表ト申
大正九年五月十八日

在天津日本總領事館

好關係極力表ト申

報告書

一 過日來直隸省ニ於テ臨城炭礦ヲ抵當トシテ
白耳義國ヨリ五百萬磅又ハ一千萬磅ノ借款
成立シタリトノ報新聞紙上ニ散見シタルヲ以テ其
真偽ヲ内偵シタルモ全ク事實無根ノ由テ本
件ニ關シ直隸都督衙門中尋常顧問タル木下士
偉カハ尙銀々々ニ語リタリ云々コレハ直隸省ノ
財政ハ本年初メヨリ甚敷ニ窮乏シ軍費費
用ヲ除ク外行政官吏ノ俸給ハ本年二月迄
及三月迄共未拂ノ有様ニテ度々借款總出デ
タルモノトシ具體的ニ成立セルモノモキキヨリ唐山ノ
後方ニテ前清皇室用タリシ土地若干畝ヲ
百四五十カ兩ニテ賣却セトシ或ハ程度占協

在天津日本總領事館

議進行レワアリタシモ近來ニ至リ又ハ協儀控
折レ財政依然トシテ困窮ノ状態アリ古ト
前記新聞紙ノ記事ノ或ハ之等ノ誤傳ニ非
ザルカト察セラル
一 客年豫算ニ在リ北京天津保定ノ各災
害天津高陽徐水ヨリ十月迄京滬保善後
協會ヨリ劉子鵬城董事會ヨリ梁峻山保
定高陽會ヨリ劉毓ヲ各代表者トシテ損害
賠償ノ請求ノ指メ上京セシタルガ馮都督ヨリモ
右賠償ヲ大借款ノ内ヨリ支給セラシメ知事各人
信ニ電請シタリト云フ
一 黃興ノ案ニ依リ豫備政新ノ内情調査員ノ
當古ニナリ居タル黃俊如來津タリコトハ不取敢

昔行に此終ヲシテ無代ヲ各所ニ配付セシメ又ハ通
行人ノ分此ヲシテアルカ本紙カ何等ノ價値
ナキヲ以テ巨額ヲ投シテ無用ノ費用ヲ費ヤシ
人民ノ負擔ヲ重カシムルリ不都合ナリトテ省
議會及一般人民ノ攻撃ノ甚レトセテ
一新民屯ニ駐屯スル第一ノ鎮ノ砲兵ノ千名駐
兵ノ千名馬百十頭大砲十門昨十日ある地ヲ
徑張家口ニ移送セシタリ

大正四年七月廿九日
在天津日本總領事館

政府長官阿部外相宛

在天津日本總領事館

水

報告書

直隸省の借款ノ件ニ関シテハ昨日報告セル處
 ありタルが直隸都督府幕僚海島門ノ本件
 ニ関シテ語リテ白日ノ内容其他ノ詳細判然セザル
 都督府ノ自國資本家ト借款ノ商議中ニテ左
 部格ノ般秋書ヲシテ直接協商セリタルモ
 詳ナル處ニ依レバ不成立スルハト傳ハルモ
 一 海都督府ノ本列約ニ對シ若シ上野スルヲ得カレバ天
 津直北上セリ知キ昔其電ニ對シ時様ヲ
 見テ北上スルキ皆本ノコリ返電アリタルト云フ
 一 津海關監督コレテ過激黨者地方特派員
 二 徐光瀾 徐光瀾ハ官制改革及海關
 三 徐光瀾 徐光瀾ハ官制改革及海關
 依リ他ノ行政官吏トノ不和ヲ生シ致スト

在天津日本總領事館

除外セラルル所ニ於テ然ルモノアリ其ノ名簿ハ
 與衆庶長相ヲ以テ德ノ移リ徐光瀾ト名之可
 一 一ノ上野光瀾ニ過キル如キ如キナリ
 大正五年十月二十日

在天津日本總領事館

直隸省の借款ノ件

六

報告書

六月二十日、亞細亞日報「華兵樂禍之日本」ト題
 之左ノ如キ記事ヲ登載セリ「南方獨立、以朝ハ表
 面稍平靜ヲホスト雖ニ二三不足、徒ハ尚暗中
 ニ運動シ外國ヨリ軍械ヲ購入シ破壊ノ計畫ヲ為
 シワアリ昨日路透電ニ東京專電ヲ傳ハ其ノ
 事トナリト云フニ據ルニ目下主要彈藥ヲ汽船ニ
 積載シ福州及南方各處ニ射クモノアルガ該彈
 藥ハ日本高ノ受負ニ係リ日本陸軍ノ拂下セル
 廢物ヲ以テ中國ニ轉賣スルモノナリ云々

一、參議院議長張継カ國民黨ヲ脱シテ共和黨
 ニシタリシハ、之ハ新聞紙ニ依リ傳聞セラルカ民
 視報リ張継カ急ニ國民黨ヲ脱シテ共和黨ニ入

在天津日本總領事館

ルハ第三卷ヲ但成セシ者ニシテ表面上國民黨
 ニ及ビセル如キニ似タルニ其内容ヲ察スルニ張継
 ノ今更ニ革命ノ國民黨ノ指使ヲ受ケ先ツ
 共和黨ニ加入シ煽惑ノ手段ヲ施シ以テ進
 歩黨ニ破壞スルノ詭計ナリト、記事ヲ登載
 シ居レリ

一、前清上海道袁乃煌リ近日來、上海
 ヲ秘密往復シワ、アノ前上海支店使陳貽範
 ノ後任運動ノおナリトモ傳セラレ同ノ一友人ニ對シ
 テ「袁乃煌上海支店使ニ就任スルニシテ、格リ尚袁乃
 對シ上海租界ノ指任スル破壞黨ヲ租界以外ニ
 驅逐シ得ル計ニ充テナリト格レリト云フ
 大正六年七月七日、在天津總領事館

受13862號

大正二年六月廿五日

書政局

第一課

公第 七一 號

大

大正二年六月十三日

在福州

副領事 生谷 久 奉 藏



外務大臣 爵 牧野 伸 顯 殿

福州政界近情報告ノ件

過日 某 日 曆 端 午 之 際 會 社 支 那 人 大 動 定 日 之 當 ル ヲ ス テ 軍 警 兩 界 ヲ 始 ノ 各 界 支 給 ス 兵 餉 給 ノ 出 所 ナ キ 於 テ ハ 必 ス 一 騷 動 ヲ 來 ス 一 般 之 豫 想 セ ラ レ タル モ 幸 哉 分 補 給 得 此 難 關 ヲ 切 抜 ケ タル モ 如 々 地 政 界 表

面 何 等 異 状 ナシ 唯 内 部 於 ケル 困 難 之 状 態 各 方 面 涉 リ テ 殆 レ ト 收 拾 ス 一 カ ラ サ レ 至 リ 姑 息 偷 安 只 管 中 央 政 府 確 立 ヲ 待 テ ワ 一 ア ル 有 様 ナリ 今 甚 大 要 ヲ 列 記 セ ン 一 財 政 補 救

當 者 財 政 之 疾 ヲ ヲリ 困 難 ヲ 極 ノ 彌 縫 彌 縫 ソ 重 ネ 大 借 款 成 立 ヲ 待 テ ヲ ア リ シ モ 折 柄 端 午 節 季 之 際 レ テ 高 山 未 シ 中 央 政 府 ヲリ 何 等 補 救 ヲ 得 不 當 句 者 ハ 東 奔 西 走 金 策 斡 旋 レ 一 方 北 京 政 府 及 高 務 院 會 出 資 ヲ 請 求 ス ル ト 昔 一 方 外 國 債 本 家 之 交 渉 レ 漸 々 北 京 ヲリ 七 萬 弗 補 救 ヲ 得 又 台

湾銀行ヨリ五萬弗香上銀行ヨリ四萬弗
ノ短期借入ヲ爲シ何レモ鹽稅期票ヲ担
保ニ供シタリト云フ其ノ他南務總會ヨリモ
幾分、工面ヲ爲シタルモノ、如ク之カ爲ノ軍
隊及警察員ノ俸給ヲ支拂ヒタル由ナリ
トモ其ノ他、行政部學部船政司等未
拂ノモノ數ナカズ、財政司長陳之麟ハ
各部ヨリ督促シテ果テハ攻撃軍倒セ
ラレ、ニ至リ遂ニ再三辭表ヲ呈出セリ又
歲入增收ノ方法トシテハ目下高捐即チ
厘金稅ノ賦課率ヲ高ノ前清時代ト
同標ニ復旧セリトシ高務總會ニ交渉
中ナルモ同總會ハ同意セザルモノ、如レ

在清備案館

二、孫都督ト國民黨

南北紛爭以來都督孫道仁ノ態度ハ
表面曖昧ニシテ密カニ大局ノ趨ク所ヲ
觀望シツ、アルノ有様ナリレガ漸ク表一
派ニ與ヒシ中央政府ニ遵依スルノ措置
ヲナスニ至ルヤ当地國民黨員ハ大ニ憤
慨シ暗ニ辭職ヲ勸告シタリ孫都督
モ亦財政日ニ困憊ヲ極ノ土匪屢ニ起
内外ノ煩ニ堪ハサルヲ以テ頻リニ辭意ヲ
國務院ニ電請スルモ慰留セラレテ去ル
能ハズ、テ國民黨モ亦本部ノ形勢日
ニ非ニシテ南風競ハズ当地支部員ノ脱
黨者多ク此俟ニテハ政局ノ爭奪思ヒモ

寄ラサルヲ以テ奸手候ヲ講シ或ハ棄テ不
和ノ間ニ在ル閩軍及湖南兵ヲ批動セシ
メントシ或ハ各地ノ土匪ニ内通シテ騷擾シ
醸サントシタルモ事多クハ前知豫防セ
ラレテ成ラズ今ヤ落日退嬰ノ状況ニア
リ然レ民党負ハ屢ハ秘密會ヲ開キ何
等画策シワ、アムモノ、如クナレハ樞會ヲ
ニアラバ如何ナル椿事ヲ起スヤモ固リ推
シト云フ

三、民政長ノ文選

岑春煊ノ推薦ニ依リテ福建民政長ノ
職ヲ奉シ其ノ手腕抱負ニ對シ多ク世
人ノ望ミシヲ屬シタリレ張元奇ハ爆彈

以來為ス所ヲ知ラズ專ラ辭意ヲ決
シ居リシガ遂ニ賜暇ヲ得テ去月十一日定
然天津ニ赴キ臨時代理トシテ現任内
務司長江會経就任セリ彼モ亦岑春
煊ノ採用ニ係リ共和黨系ニ屬スルヲ以テ國
民党負ハ早クモ之ヲ驅逐シテ自党負シ
以テ之ニ充テント謀リ種々惡評ヲ下リレ
ワ、アリ江民政長ハ自ラ解任ヲ中央政
府ニ迫ルト共ニ世間候補者ノ物色數
ナカラズト乘ニ中央政府ハ其ノ後任者
撰
技ニ困難セルモノ、如シ

四、興化ノ土匪

興化府ノ土匪ハ過般凶遊蹂シ古領レ

省議案

其勢猖獗ナリシモ当地ヨリ討伐軍ノ
 到着ト共ニ同縣ヲ回復シ匪首黃濤ハ
 逃竄セリ之カ為メ同縣ハ一時慘状ヲ
 逞シ在留外國宣教師ノ引上ケルモノ
 數ナラスサリシモ現今殆レト鎮靜ニ帰
 シタルモノ、如シ尤モ同地方ハ土匪ノ巢窟
 ニシテ隘路ヲ達シテ天險ニ據リ且ツ其地
 方良民ヲ慰撫スルコト巧ニシテ甚シキ
 掠奪ヲ為サズ市民ハ土匪台領ノ下ニ閑
 居シツアル如キ有様ナリ之ニ反シ討伐軍
 ハ不規律シ極メ殊ニ酷薄ノ取扱ヲ
 為シタル為メ市民ヨリ反抗シ文ケタリ
 ト云フ過般省議會ニ於テ官軍完
 辦ノ議案上リシ如キ其ノ実情ヲ知ル
 ニ足ルヘシ興化以外詔安永春安溪
 等ノ匪亂モ出沒常ナキモノ、如シ

五、省議會ノ行動

福建省議會、多數議員、國民黨
 ニ屬シ其ノ言ハ所多クハ興望、副ヒレ
 モ過般議員俸給シテ一年三百円増額
 ノ事ニ議決スルヤ左ナキカ、財政窮乏
 ノ折柄忽チ輿論ノ反對ヲ買ヒ一方
 國民黨、凋落ト共ニ漸ク一般社会ヨ
 リ重要視セラレサレニ至シリ同議會ハ
 本月五日ニテ會期満期ノ処本省議
 案決案案其他ノ議事々項未ダ

議了セザルニヨリ今回更ニ二十日ノ近期ヲ看
セリ

六、承認後ノ米國領事

探聞スル所ニ依レバ当地米國領事ハ
民國承認後尚ホ南北確執シ党争
止マサルヲ遺憾トシ或ハ都督民政長
ヲ訪ヒ或ハ國民黨員ヲ招キ或ハ自國
宣教師ヲ介シテ樞會アル毎ニ其非ナ
ルヲ説キ速カニ民國統一シテ平和ノ間
ニ進歩發達ヲ圖リ兄弟牆ニ圖カノ
愚ク警告告シワ、アト云フ

七日支人ノ會合

近時北京其他ノ重要地ニ於テ日支
人間ノ恨會又ハ俱樂部成立シ兩國人
間ノ交情益々可ナルモノアリ見ルヤ当地
ニテモまシトナリ西國人ノ會合ヲ促スニ
至リ日支俱樂部ノ成立ヲ唱道スルモノ
アリ当地ニハ軍界及學界ヲ始メ三四
百名ノ日本留學生アリ日本ニ對スル
感情ハ或ハ一部ノ改革ニ利用スルモ
ノ、外ホスシモ悪シカラサルヲ以テ斯カ
ク之際樞會ノ發見シ見ル難シトセス唯
親米派ニ對スル感情上多ク嫌疑ス
ル所アリトシ如シ

右報告申進候後果

追テ本信守伊集院公使及台湾總督并民政
長官ニ提出致ル也

ホ

第 門

右件

報告書

一袁世凱ニ對スル本邦諸新聞社ノ惡感情融和
 ノ爲メ或ル秘密ナル任務ヲ帯ビ本邦ハ渡航スル極
 品日來傳稱セラシ居タル李若鐸ニ昨廿三日当
 地袁世凱ニ向ヒタル若シ同行ノ孫寶琦ハ數
 日後ニ奉天ニテ落合ヒ同伴渡日ノ由李若
 鐸ハ其本邦人ニ物語リタリト云フ孫ニ實際
 昨北口当地袁世凱ニ向ヒタリ李若鐸兩人ハ
 何故ノ其出發ノ期日行程等ヲ非密中ニ秘
 密ニ附ヒタル果シテ李ノ言ヲ如ク奉天ニ往
 由出發スルモノナルヤ否ヤハ明カラザルモ兩人共
 昨日及一昨日ニ当地ヲ出發スルハ事實ナルカ如シ
 一直隸省借款ニ關シテ去本日廿日不取敢報告

在天津日本總領事館

セル如クアリシカ直隸省議會ニ馮都督ハ一稿カ
 白耳義ヨリ一百万磅ノ借款ヲ求ムタル旨傳聞シ
 昨廿四日秘密層ヲ開キ都督ニ向テ果シテ
 斯ル事實アリヤ否ヤ明答シテ且且將來借
 款ノ際ハ其何國タル性質ノ何タル由ハ不
 議會ノ承認ヲ待テモ無効ナルヤ又極
 稅ノ増収ヲ計畫セシハ如何ナル用途ノ為ナルヤ
 速ニ回答シ疑ヲ解カシト迫リタルカ都
 督ハ借款ハ目下進行中ナルニ直隸ノ產物ヲ
 抵當トスルニ非ズ且其用途ニ中央ニ屬スル
 モノトシバ省議會ノ承認ヲ待ルニ必要ナルト答へ
 振テ之ニ對シ省議會議長ハ如何ナル用
 途ヲ向テ都督ノ名義ヲ用テ借款ノ省議會

支那の政治

〇一級

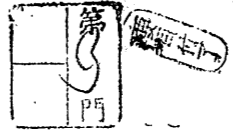
ノ承認ヲ必要トスルニシテ中央ニ属スル借款ニ拒却
督勿立大ルノ必要ナカルバト駁シタルカ左會ハ昨日
ヲ以テ閉會スルニヨリ右ニ因テハ今後リ政黨向
ニ於テ善後策ヲ備カバト云フ

一唐紹儀ノ甥ニシテ同盟會員タル唐廷星ノ弟
殺ハルニ語リテ曰ク李烈鈞、胡漢民カ已ニ四
免セタル以上リ南北妥協等ノ必要ナラハ同盟
盟會員ノ目下上海ニ於ケル國民黨等々リ此
國民黨等々ノ面目維持ナルカレト尚同人リ已ニ
袁ニ買収セシタル噂アルカ同人リ右非認ノ者
カ目下上海ニ於ケル國民黨ト曰ク秘密ニ通信
ヲ爲シ居リト云レリ

一北京乃当地ノ所々ノ新聞紙上ニ本月二十日夜

在天津日本總領事館

本邦人吉田五郎一たモノ炸彈ヲ携帶シ
天津ヨリ北京ニ赴キタルカ東洋車場ニ於テ稅
務局ノおノ其携帶ニ係ル十九箱ノ炸彈ヲ
査出セシタリトノ記事アリ之ト同一事件ト
ヤ否ヤ明ナラザルモ本邦人ニ名カ東直門ニ
於テ危險物運送ノ者ノ捕縛セシタルカ該危
險物ノ主任人ハ川島前清常師巡警ヲ學ブ
監督ニシテ危險物ヲ大連ヨリ運送シ来リタルモ
ナルカ汽車ニ依リ時ニ見セラルルコトヲ持
テテ當古ニ取リ同地方ヨリ陸路運入シ稅
局ノおノ捕縛セシタリ云々ハ此事アリ右ノ國
民公報ニ日本政府ハ林政府ニ對シ扶助ノ誠
意ヲ表スルハ吾人ノ感謝スル處ナルカ日本ノ樂智



受14095號

大正二年六月廿八日 公債第七二號

謹政務

第一課

大正二年六月十四日

在長沙

領事代理岡本武三



外務大臣男爵牧野伸顯殿

湖南外交司長改任並同司改稱
關スル件

令回大總統ノ命令ニ依リ陳安良

特派湖南交涉員ニ任命カレ本

月六日着湘同十日ノ前外交司長

業裁時ノ事務引継テ了レ隨

テ從來ノ湖南外交司ハ外交部特

派湖南交涉署ト改稱シ外交總

長ノ統轄ニ歸スルコト、考リ當省ノ交

渉事務ハ必テ同交涉員ニ於テ取

扱テ上日本月十日付ヲ以テ新任外

交部特派湖南交涉員陳安良

ヲ通知ニ接シタリ

右御報告申進修教具

支那為政要

地方

寫

三一一

北支那
各省着
收野外務大臣

大正三年七月一日

第五〇四號

六月三十日附大總統令ヲ以テ柏文蔚ヲ陝甘
籌邊使ニ孫多夜ヲ安徽民政使ニ任シ
同
人ヲ安徽都督ヲ兼任代理セシムル旨發布
セラレタリ

予著す即旨比る者ハ任邊情報

外務省

内政

地方

大正貳年七月貳日 接受 駐政務局

第一課

公第四二號

大正二年六月廿日

在沙市

領事館事務代理橋口貢

外務大臣男爵牧野伸顯殿

宜昌交涉員新任報告之件

今般宜昌交涉員劉鳳書ヨリ本年四月二十四日外交部湖北宜昌交涉員ニ任命セラレタル旨接通牒候全氏ハ先キニ宜昌税關監督兼商埠交涉事

在清國沙市日本領事館

宜代理タリシガ今田前陳ノ如ク新任セラレタルモノニ候年齢三十五六位人物温厚ニシテ外國人間ノ氣受宜ク有之候全氏ハ夙ニ米人ノ教育ヲ受ケタリトテ英語ヲ流暢ニ話シ候
右此段及御報告候 敬具

受14414號

第 3

印

正議長一人	二百元
副議長二人	三百二十元
議員百五人	一万八千一百元
一俸給	
秘書長一人	七十四元
種書四人	一百六十元
書記十人	二千七百五十元
速記五人	三千九百元
内務及小使等	二千五百元
一雜費	
事務所二十之助費	一百五十元
窓掛花等及盆氣等	二百五元九角三分
書籍印刷費	一万四千五百元
在天津日本總領事館	
具各所出米マツク等	七千二百元
由蠟燭紙、茶等	二千七百五十元
電燈電報郵費等	四百十元
官帳及及并書料	三百十二元九角三分
馬車人力車費	三元一角五分
雜費	四百一元一角五分
一聯合布費	
聯合布費	九百元
合計額	二万三千二百五十五元四角七分
大正元年七月五日	
在天津日本總領事館	

政治部長阿部守平印

办

報告書

在青島 森岡君に生るり 報告を(七月五日)

一 山東教育司長ノ交代

一 山東外債ノ必要ニ関シ行政公署ヨリ財政部

ニ理由書提出

一 山東教育司長王朝學ノ同盟會系ノ人物ニシテ

進歩者ノ根柢深キ當省官界ニ於テハ施政方

針上場事制手肘ヲ受クルトナリカラス不年ノ結

果先般辭表ヲ提出シ直ニ醜評ヲ得タルト同

時、前清時代當省提督使タリシ雷克宇其

後任ニ任カラルシカ雷君タル曰ハ北軍ヨリ赴任シ

兩三ノ中事務引継ノ出ナリ

一 山東行政公署ヨリ青島曰外債ノ必要ニ関シ財政部

在天津日本總領事館

ニ理由書ヲ提出セリ要ニ曰ク

現在中央省府財政富乏甚極ニ達ス当省亦

一 去年度預算赤字ニシテ歳入一千七百九

九千七百一十一元二角一分歳出一千四百九

千七百九十九元五角五分歳出超過額

八十九万八千九百九十四元三角九分

カノ上歳出ノ核減ヲ行クニテ果シテ

許可減ノ案ヲ呈シ得ヘキヤ尚ホ把握ナシ現狀

ニ就テ之ヲ論セバ七八九月頃ハ未償還

ヘテ月需九十六万四千餘元ニ上リ而モ支出

超過スルバ陳腐立口、至ニ巨款ヲ籌措スルニ

テハレバ以テ補救ニ當スヘキナシ

地瘠款ノ籌スヘキモノナリ強ヒテ之ヲホシ

地方

零星にシテ事ニ増ヒナキナリ思惟南回堆外倭
一法アルノニ國ヨリ欲鳩止賜ノ計ニルヲ知
ルト云々当有以安ニ維持上且ツハ京博屏藩
保障ノ術ニ實ニ外策ニ出テサルヲ得ナリナリ正
ト一昔東洋ニ原病ヲ賜ヒ南ハ貴命ヨリ財
政司ハシテ東者ト設法確高セシメラレタリ
如ク維新出テ也

大正三年七月
在天津日本總領事館

政務局長河野正三郎殿

在天津日本總領事館

水

報告書

在滬華僑團書生より九月三日(七月三日)

留日留學學生被控運動

蔡文滄氏ノ彈劾

本年七月下旬山東國民黨者紀ヨリ有議會
決議ヲ經得來本邦ニ留學セシムヘキ青年ニ日
語並ニ英語ヲ教授スル目的ヲ以テ當地ニ有立留日
留學協會タルモノヲ設立シ先ツ手組ノトシテ自來
山東華僑運動ニ參加シタル數千名ノ青年ヲ入
學セシメ現ニ本邦留學一名ヲ留學ニ出セルカ所
在共知覺有會議之ヲ反計シ如強校運動
着手シタリ

蔡文滄氏ノ彈劾ニ之ヲ到底外交ノ責任ニ歸ス

在天津日本總領事館

又トナシ本邦右會ノ糾察會議ニ於テ彈劾書

ヲ提出シタリ

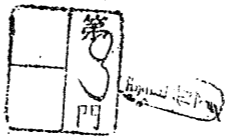
右及報告書也

大正二年七月八日

在天津留學如事ノ段

留日留學學生被控運動

地



後14977號

大正貳年七月拾日 接受

駐政務局

第一課

公第四六

大正二年六月三十日

在沙市

領事館事務代理橋口貞



外務大臣男爵牧野伸顯殿

沙市交渉員新任報告ノ件

今般當沙市交渉員盧本權氏ヨリ本年五月廿九日外交部湖北沙市交渉員ニ任命セラレ去ル十九日各員帶同着任ノ旨接通牒候同氏ハ年齡三十

在清國沙市日本領事館

二三日本留學中正則豫備校ニ在學シタル事アルモ暫時ニシテ上海ハ歸リ後南京高等學堂教師ヲ勤メタルコトアル由ナリ日本語ハ聞得ルモ談話ハ覺束ナシ只タ部下第一科長名呂學瀛氏ハ日本ニ八年留學シ高等商業學校卒業シタリトテ日本語ヲ自由ニ話候右比段及御報告候 敬具